

令和元年度 第2回帯広市総合計画策定審議会 議事概要

日 時 : 令和元年11月5日(火) 18:30~20:40

場 所 : 帯広市役所 10階第5B会議室

出席委員 : 金山会長、有塚委員、岩田委員、氏委員、太田委員、河野委員、小山委員、柴田委員、日月委員、林委員、村田委員、渡辺委員(以上12名)

説明員 : 関口政策推進部長、石井政策推進部企画調整監、西尾企画課長、
(事務局) 高橋企画課主査、千葉企画課主査、廣澤企画課主任、赤坂企画課主任補

傍聴者等 : 報道関係者2名

配付資料 : 会議次第、第七期帯広市総合計画原案、意見シート

◆会議次第

1. 開会
2. 議事
 - (1) 第七期帯広市総合計画原案について
 - (2) その他
3. 閉会

◆議事概要

【事務局】 18時30分時点で、委員15名中、11名の委員が出席し、過半数に達しているため、帯広市総合計画策定審議会条例第6条第2項の規定により、会議が成立していることを報告する。

本日は、8月の審議会において、素案に関していただいたご意見や、市議会に設置されている新総合計画特別委員会における意見等を踏まえ、事務局において作成させていただいた原案について、ご議論いただきたいと考えている。

【会長】 事務局より説明があった通り、本年8月に第七期帯広市総合計画の素案について議論し、委員の皆様より様々なご意見をいただいた。これらのご意見や、市議会の新総合計画特別委員会における意見等を踏まえ、事務局において原案を作成したことから、本日は、原案の内容

について皆様からご意見をいただきたいと考えている。

なお、本日いただいた意見については、今後、最終的に計画をまとめる上での、参考とさせていただくこととしている。

それでは、議事の（１）「第七期帯広市総合計画原案について」事務局より説明をお願いします。

【事務局】 — 資料「第七期帯広市総合計画（原案）」により事務局説明 —

【会長】 ひと通り説明があったが、意見等があれば、ご発言いただきたい。

【委員】 施策7のキャッチフレーズが「誰もの安心できる暮らしの支えになる」となっているが、「誰もの」という表現はわかりにくい。「誰もが」の方が適当ではないのか。

【事務局】 本施策は社会保障制度の取り組みであり、主に行政が主体となる分野である。「誰もが安心できる暮らしの支えになる」とした場合、社会保障制度を必要としている人に対し、誰もが暮らしの支えになると誤解されないように「誰もの安心できる暮らしの支えになる」とした。

【会長】 「誰もが安心できる」と「誰もの暮らしの支えになる」という言葉が、一緒になっているので違和感を持つ方がいるのではないか。

【委員】 「市民と市がともに」という表現は、市民が最初に来ているところが良いと感じたが、私たち市民は何をすればよいのかイメージしにくいと感じたところ。

全体的には素案には無かった Iot などの表現も加わっていて、よくまとまっていると感じるが、10・11 ページにある関係人口・交流人口については、説明が必要と考える。

【事務局】 まちづくりを進めていく上で、市民が主役であり、市民と一緒にやってまちづくりを進めていくことが必要である。こうした考え方は、まちづくり基本条例に示しており、第七期帯広市総合計画もこうした認識のもと策定している。今回、キャッチフレーズや目指そう指標を

設定し、市民の皆さんに共感をしていただけるような記載に努めており、市民の皆さんの行動を通じて将来のまちの姿の実現につなげていきたいと考えている。

今回、「わかりやすさ」ということを意識して作成しており、わかりにくいと感じられるような文言については、表現の修正や解説を加えるなどの対応を検討していきたい。

【委員】 8ページの将来のまちの姿について、「あおあお ひろびろ」は、将来のまちの姿と言うよりも、すでに十勝・帯広にあるものと感じるし、「未来を信じる」は、観念的でイメージしづらい。

例えば、別の表現で、未来に向かってアクションしていくと言うことであれば、将来のまちの姿として共有できるような気もするが、今の表現であれば、すでにこの地域にあるものが半分くらいあるように感じ、アクティブになれないと印象を受ける。

また、今後、高齢者の増加や労働人口減少などが懸念されている中で、「いきいき」というキーワードは、大変重要になってくると考えるが、そこに「未来を信じる」と続くのではピンと来ない感じがする。

【事務局】 これまでは「都市像」として、基盤整備や環境保全などの主にハード面の取り組みを通じて目指す都市の姿を表現していたが、変化の激しい時代において、何を将来の姿に掲げてまちづくりを進めていくべきか改めて議論する中で、これまで記載していた考え方は「まちづくりの目標」に示し、将来のまちの姿には、ここに住む人たちの姿勢を示すこととした。「あおあお ひろびろ いきいき」は、自然、農業、大地、十勝の結びつき、ここに住む人たちの前向きの姿勢など、これまで帯広市が大切に受け継いできた価値を示している。これからの時代を切り拓いていくときにこうした価値を活用し、その上に前向きな人たちがいる、未来を信じられる人たちがいるという姿を目指すこととしたもの。大事なのは人であるという視点で記載した。

【委員】 計画期間が10年なので、言葉のイメージを固定化しない方が良いと言うことは理解できる。

施策5のキャッチフレーズ「バリアをバリューに変える」と言う表現は適当なのか。ユニバーサルと言う言葉の方が良いのではないか。障害のある人たちのために考えていくことが、いずれ社会全体のためになると言うことは間違いないと思うが、そうしたことを表現してはどうか。

【委員】 インターネットで検索したら、バリアバリューと言う書籍があり、そのサブタイトルがバリアをバリューに変えるとなっていた。

なお、この著者は障害者であり、障害者の視点でユニバーサルデザインなどのコンサルティングをして、成功していった内容となっていたが、この内容に沿った取り組みを帯広市が行うと言うことを前提にして、こうしたキャッチフレーズにしたものなのか。

【事務局】 特定の成功事例を想定して設定したものではない。キャッチフレーズの考え方としては、障害を個性として捉えながら、地域で活躍できる社会をイメージしてもらうために設定した。

【委員】 書籍の内容と施策5の主な取り組みが異なっていたことから、誤解をされないような説明が必要だと思う。

【委員】 このキャッチフレーズは、障害者雇用率を意識し、心のバリアフリーを含め、皆が自分の能力を発揮できるような社会を目指して設定したものと受け止めており、特段、違和感はなかった。

【会長】 人によって受け止めは様々であるため、いただいたご意見は市の方で再度検討いただきたい。

【委員】 以前に帯広市で特別支援の全道研究大会が行われた時に、江別市の方が事例を提言されていた。

内容としては、江別高校に全盲の方が入学されることとなった際に、受け入れる学校側では、耳で聞いてわかるような授業の研究を行い、それに基づいた授業を続けていったところ、そのクラス全体の成績が向上したと言う話であり、障害のある生徒のために配慮し

たことが全体のためにもなったと言う好事例であると思う。

こうした事例はたくさんあると思うので、障害のある人たちのためにすることが皆のためになると言うことを広めていくべきだと思う。障害のある人への理解促進の取り組みのところで、そういった事例を取り上げてほしい。

【事務局】 総合計画には基本的な考え方を記載することとしており、各施策において個別具体的な取り組みまでを記載することについては難しいが、各施策における分野計画の中では、こうした視点を踏まえながら策定していく必要があると捉えている。

【委員】 20 ページの施策4の主な取り組みの(1)の「担い手の確保」が誰のことを示しているのかよくわからないのもう少し具体的に記載していただきたいと考えている。

また、目指そう指標の「介護を要しない高齢者の割合」の指標の説明の中で、要介護1までを介護を要しない高齢者としているが、わかりづらいのではないかと。

【事務局】 目指そう指標では、「介護を要しない高齢者」を、介護認定を受けていない人及び介護認定を受けていても要支援1、要支援2、要介護1の人と定義したが、指標の名称から受ける印象と定義に乖離が生じないように検討したい。

担い手については、地域で福祉活動をする人や介護に従事している人など、様々な担い手があるので、どのような人を指しているのかわかるように整理したいと考えている。

【委員】 19 ページの施策3の主な取り組みの(1)には「福祉活動の担い手」と具体的に記載されており、同様の考え方で検討いただきたい。

【事務局】 今後、在宅を含め、介護が必要な高齢者が増加することなどを踏まえ、素案から追記したところであるが、ご意見を踏まえ、改めて表現について検討したい。

【委員】 将来のまちの姿における「あおあお ひろびろ いきいき」は、帯広らしさを表現したものであると思うし、これまでの総合計画においても、まちづくりの目標をはじめ様々なところで、自然との共生や緑あふれると言った表現があったと思うが、今回のまちづくりの目標は、自然との共生に関する記載が少なく、人を軸にした表現になっているように感じる。

「帯広の森」は先進的な取り組みであり、内外から評価されているにも関わらず、施策 21 の主な取り組みの（2）では、「帯広の森」に関する具体的な記載がなく、包括的な表現になっていると感じる。

また、帯広市には JICA の施設があり、道内には札幌市と帯広市の 2 箇所しかなく、帯広市の方が稼働率が高いのにも関わらず、国際交流に関する具体的な言及がない。

総合計画は、市が仕事を進めていく上での根本になると思うが、具体的な取り組みがどこに位置付けられており、どういう方向に向かって行くのかが見えづらいところがあるのではないかと。

【事務局】 「将来のまちの姿」は、これまで築き上げてきた価値を大切にしながら、ここに暮らす人々が未来を信じ、挑戦や行動を続けていく姿勢を表したもの。まちづくりの目標は、こうした将来のまちの姿の実現に向けた、今後の取り組みの方向性を示している。自然との共生の視点のまちづくりの目標への記述については、計画全体を踏まえた上で考えたい。

10 年後の先行きを見通しにくいことから、基本計画には、今後の取り組みの基本的な考え方を記載し、具体的な事業については 3 年を期間とする推進計画で事業内容や予算などを示していくこととしている。

【会長】 10 年先を見通した中で、どこまで具体的に記載できるかは難しいところ。具体的な取り組みを進めるにあたっては、総合計画を踏まえ、市民と一緒に考えていくことになると思う。

【委員】 市の事務事業がそれぞれ総合計画のどの部分に関連していくのかと言う点については、これまでの議論の中で、ひとつの事務事業に対し

て施策が一对一の関係で位置付けられるのではなく、様々な施策にまたがると言う話も出ていたと思う。

【事務局】 ご指摘のとおり、ひとつの事務事業が様々な施策に関連してくるので、どのような分野に関連するのか、できる限り推進計画でわかりやすく示していきたい。

【委員】 38 ページの施策 22 の主な取り組みの（3）について、男女に関してバランスのとれた良い表現になっていると考える。

給与面を含めて現実的な問題は残っているとは言え、こうした記載をきっかけに、男性も女性もともに活躍できる社会になっていけば良いと感じる。

ちなみに、施策名にある「多様な主体」とは何を指しているのか。

【事務局】 多様な主体を何か定義を持って示すものではないが、例えば、主な取り組みにおいて、町内会や企業、ボランティアグループなどのほか、女性、アイヌの人たちなどを示しており、様々な人々や団体がつながり、活躍しているということを表示したものである。

【委員】 40 ページにある各施策とSDGsのつながりを示している表は、それぞれのつながりが見えて良いと考える。こういうものを施策展開における様々な場面で活かしていくことが重要であると考えます。

【会長】 38 ページの施策 22 の主な取り組みの（3）と（4）は、素案から新たに追加した部分である。

【事務局】 施策 22 について、素案にも男女共同参画の推進とアイヌ民族の歴史や文化の理解促進の考え方を示していたが、原案において、より考え方を分かりやすくするため主な取り組みとして記載したものである。

【委員】 施策 22 の背景の中で、「各分野を横断した総合的な取り組みが求められています」という認識が示されている点が良いと感じた。一方、

目指そう指標と主な取り組みの（３）及び（４）との関連が低く、（３）や（４）の進捗を指標でチェックするのが難しいと考えるが、施策を包括的に捉えた観点で設定されたとのことだと思う。

なお、以前も、スポーツ振興と観光振興と健康増進の各分野における連携が必要であるとの話があったかと思うが、40 ページにあるSDGsにあるスポーツの振興については、観光や働きがいなどの部分ともリンクできる部分があるのではないかと。もう少し、健康とスポーツと観光のリンクがあっても良いと考える。

【事務局】 SDGsは17のゴールと169のターゲット、さらに、その成果を測るための指標が設定されており、40ページの表では、その指標の達成に寄与すると考えられる施策に印を付したものとなっている。

【委員】 事業計画になった際に、取り組みの連携が市民にもわかるように示し方を工夫していただきたい。

【会長】 今回は、参考としてSDGsと各施策がどのようにつながっているかを見える化したものであり、計画の推進にあたっては、様々な取り組みを関連させながら進めていくことになると思う。

【委員】 見える化をしてはじめて市民が理解できると思うので、このように示していただいたことは画期的であると思う。

【委員】 難しいかも知れないが、各施策のページに担当部署や関連施設などが示されていると内容や問い合わせ先がわかり、市民がより使いやすいものになるのではないかと。

【事務局】 基本計画に記載すべきか、具体的な事務事業を示す推進計画に記載すべきか、考えていきたい。

【委員】 38ページの施策22の主な取り組みの（５）について、性的マイノリティの方々が暮らしやすいと思える仕組みづくりが重要であると感じる。

社会の流れを見ると、自分の個性を主張して暮らしていくと言うスタイルをとっている方が全国にたくさんいらっしゃるので、これから10年先を見据えた時に、そういった方々が暮らしやすい地域を作っていくと言う考えがどこかに含まれていたら良いと考える。

【事務局】 施策22の主な取り組み(3)において、男性も女性も活躍できる環境づくりを進めていくとしている。また、総合計画に即して、現在策定を進めている「第3次おびひろ男女共同参画プラン」においても、LGBTなど多様な性に対する考え方の記載を検討している。

【会長】 素案の段階では「性別や世代」と書いてあったが、原案では逆に記載を無くしており、誰もがと言う意味合いがより強調された形となっている。

【委員】 目指そう指標について、じっくりくるものもあれば、そうでないと感じるものもあるが、市としてどのような観点から決められたのか。

また、指標の中にも、客観的なものと主観的なものが含まれている。個人的には主観的なものはあまり含めない方が良いと考えるが、これらは、どのような考えで設定されたのか。

【事務局】 第六期総合計画は各施策に複数の指標とアンケート調査を基にした市民実感度を設定し、施策の進捗状況を評価していたが、第七期総合計画では、各事務事業に指標を設定し、評価を行っていきたいと考えている。目指そう指標をもって、これまで実施していたような施策全体の評価を行うものではなく、市民にまちづくりに共感をいただき行動につなげていくため、市民と市が一緒になって目指す目標を数値化したものである。

また、目指そう指標の多くは、帯広市の立ち位置がわかるよう他の自治体と比較が可能な指標としている。

【委員】 目指そう指標の項目は、各施策の主な取り組みからと言うよりも、大きな施策の表題から指標を決められたと言うことか。

【事務局】 例えば「学校教育の推進」など、市民の皆さんが施策名だけを見てもどのような取り組みをしているのかわかりにくいのではないかと認識のもと、施策毎にキャッチフレーズを掲げ、まず見てもらい、どのようなことを進めているのか関心を持っていただき、目指そう指標において、市民と市が一緒に取り組む目標を明示し、行動につなげてもらいたいと考えたところである。

【委員】 28 ページの施策 12 であるが、主な取り組みの（2）には、市立の高等学校と言うことで帯広南商業高等学校の記載のみとなっていると思うが、市内に他の高校がある中で、帯広南商業高等学校のみを表示すると誤解を招くのではないか。

【事務局】 第六期総合計画において、学校教育の推進、教育環境の充実、高等学校教育の推進の 3 つに分かれていたが、今後は、小中高一体的に施策を進めていくことが重要であると考えているため、第七期総合計画の素案では、学校教育の推進の 1 施策にまとめたところ。その中で、高等学校教育の取り組みの考え方がわかりにくいとの意見もあり、原案において、追記したところではあるが、表現については検討したい。

【委員】 26 ページの施策 10 の背景の記載に「三大まつり」とあるが、どのまつりのことを指しているのか。また、行政側が自ら「三大」と使っても良いのか。

【事務局】 三大まつりの記載方法については、改めて検討したい。

【委員】 24 ページの施策 8 のところに、ばんえい競馬があるが、これは観光の施策ではないか。

また、個人的には、この施策のキャッチフレーズは、攻めていると言う感じが出ており、非常に良いと感じているが、攻めの部分だけではなく、先祖代々この地の農業を守り継いできたことも重要であるとの認識を表現すべきではないか。

【事務局】 ばんえい競馬については、馬文化の振興や、観光振興、馬産振興な

ど様々な要素を持っていることは承知しているが、畜産振興と言う部分を軸に、農林業の振興の中で整理したところ。

なお、第七期総合計画では、序論や将来のまちの姿などにおいて、これまでの農業の歴史や培ってきたものを大切にしていける考えを示している。

【委員】 この原案は議会でも議論されたものなのか。

【事務局】 原案については、新総合計画特別委員会で議論を進めているほか、現在実施中のパブリックコメントや意見交換会、今回の審議会での意見等を踏まえて、原案の内容を整理し、改めて新総合計画特別委員会に報告したいと考えている。

【委員】 施策8のキャッチフレーズにある「世界に冠たる」という表現があまりピンとこない。「世界に誇れる」などの表現の方が良いのではないかな。

【事務局】 様々な捉え方があると思うので、ご意見として承りたい。

【委員】 25 ページの施策9のキャッチフレーズにある「とかちのかち」について、すべて平仮名にするのに違和感があり、読みづらいと考える。漢字で書いた方が良いのではないかな。

目指そう指標について、他都市等と比べることで帯広の立ち位置がわかるとの説明があり、その部分は理解するが、例えば、帯広市が頑張っていたとしても、他都市が特殊要因で数値が上がった場合、相対的に下がってしまうと言う状況になることも考えられる。

他都市との比較はあくまでも参考値とすべきであり、目指そう指標と言うのであれば、あくまでも帯広市として、上昇を目指すのか現状維持なのか、減少幅を抑制したいのかを示していくべきであると思う。

また、付加価値額と言うものが RESAS（地域経済分析システム）でも市町村別・業種別に把握できることから、そういったものを指標にしてはいかがかな。

このほか、26 ページの施策10について、観光振興の切り口をアウ

トドアにするのは良いと考えるが、目指す姿や主な取り組みとマッチしていないように感じる。

帯広市が出資しているデスティネーション十勝と連携してアウトドアの取り組みをしていくのであれば、具体的に名称を出して、そこと連携しながら推進していくと言う表現にした方が良いのではないか。

【事務局】 「とかちのかち」の捉え方については様々あるため、改めて検討したい。また、目指そう指標について、近年、法人市民税の賦課金額は他自治体と比べ堅調に推移している。今後も増加に向け企業と行政が取り組みを進める中で、指標の進捗状況を点検、評価するにあたっては、他都市と比較しながら状況を分析していきたいと考えている。

アウトドアの聖地については、アウトドアを切り口としながら様々な取り組みを進めていくこととしている。

【会長】 まず自分たちがどこを目指すのが重要であり、その結果を受けて、他の市町村と比べてどうかということになると思う。

施策9の目指そう指標を法人市民税の賦課金額としてはどうか。

【事務局】 道内他都市の中で帯広市だけ伸びているので、今後もこうした取り組みを続けていくことで伸ばしていきたい。

【委員】 法人市民税の賦課金額を指標として、割合を参考指標として併記するような形にすれば、例えば、賦課金額が減ったとしても、相対的には帯広市は頑張っていると言えるのではないか。

【事務局】 どのように記載するべきかを含めて改めて検討したい。

【委員】 まちづくりの目標の(1)にある「暮らし続けられることができる」という表現に違和感がある。

【事務局】 「続けることができる」でも通じるため、修正したい。

【会 長】 他になければ、本日いただいた様々なご意見を、今後の原案作成に活かしていただければと考えている。

それでは、最後に議事の（２）「その他」について事務局より説明をお願いします。

【事 務 局】 審議会の中でお話できなかったご意見等があれば、本日配付した「意見シート」に記入の上、事務局まで提出いただきたい。

【会 長】 以上をもって、本日の会議を終了する。

以上